

九州パラオ海嶺海域における マアナゴ産卵場の発見

◦黒木洋明（水研セ増養殖研），望岡典隆（九大院農），岡崎誠，
高橋正知（水研セ中央水研），Michael J. Miller，塚本勝巳（東大大気
海洋研），安倍大介（水研セ中央水研），片山知史（東北大院農），
張成年（水研セ増養殖研）

【目的】マアナゴ *Conger myriaster* は、東アジア全体に広く分布し、日本、韓国、中国において重要な漁獲対象である。日本国内では、漁獲量が減少傾向にあり、多くの地域で資源管理の取り組みが進められているが、基本的情報である生活史についての知見は非常に少ない。本発表では、マアナゴの産卵場と産卵期について報告する。

【方法】2008年5月～6月、2008年8月～9月に実施された水産庁漁業調査船・開洋丸および海洋研究開発機構学術研究船・白鳳丸によるウナギ産卵場生態調査において、ウナギ仔魚の分布回遊を調査する目的で、水深300mから表層までのIKMT曳網を行った。得られたプランクトンサンプルは、船上で魚類仔魚を選別、写真撮影の後にエタノール保存し持ちかえった。航海終了後、仔魚のミトコンドリアDNA 16S rRNAの解析により種判別を行った。

【結果】2008年6月、北緯16度、東経137度の海域で全長5.6–6.9 mmのマアナゴ前葉形仔魚6個体が採集された。2008年9月には、北緯17度、東経136度の海域で、2個体(全長5.8, 7.8 mm)のマアナゴ前葉形仔魚が採集された。全長5.8 mmの個体には、油球が残り、歯や顎は未形成で、これまで得られている同種前葉形仔魚の中で最も若い段階の個体であった。発育段階から孵化後3-4日と推定され、採集位置と海流から孵化した海域を推定した結果、沖ノ鳥島南方の九州パラオ海嶺上の海域がマアナゴ産卵場の一つと特定された。また、産卵期は少なくとも6月～9月にわたるものと考えられた。外洋域での産卵場の発見は、東アジア全体で同一のマアナゴ資源を利用している可能性が高いことを示している。